TK-1-1147　改0

平成30年6月26日
日本原子力発電株式会社

東海第二発電所　工事計画認可に係る説明工程の見直しについて

1.　はじめに

工事計画認可に係る説明工程は，第572回審査会合（5月17日）※1及び第588回審査会合（6月14日）※2において，一部について工程変更することを説明した。

当社としては，説明工程を確実に順守するよう，進捗管理を行い対応しているが，改めて6月末までに提出する図書の見通しを確認した結果，一部について工程遅延することが確認されたため，説明工程を見直す。

なお，コメント回答以外で新たに説明終了時期が 6 月末より遅延する事項について，以下に理由を示す。

※１：立坑構造物の解析モデル変更に伴う工程変更
※２：主蒸気逃がし安全弁（SRV）取替，床応答スペクトル（FRS）の包絡性及び解析（地震応答），建屋の竜巻についての強度に係るものについての工程変更

2.　工程見直しの理由

6 月末までに提出を予定していた図書は，合計約 420 件（目録件数）であったが，以下の理由により約80件については，7月以降に遅延することを確認した。

（１）強度・耐震様式を変更したもの（42件）

ヒアリングコメントを反映し、4月の審査会合で、強度・耐震様式を分離することになった。このため、新様式での計算書作成に着手したが、受注者への指示が明確ではなく、一部の図書の様式分離がなされていなかったことが判明し、強度・耐震計算書の作成が7月末に遅れる見込みとなった。図書作成の見通しが得られたものから順次提出していく。（対象：炉心支持構造物，原子炉圧力容器内部構造物，原子炉圧力容器付属構造部）

（２）ECCSストレーナの評価方法見直しによるもの（11件）

ECCS ストレーナの耐震強度計算書について、旧内規に基づく評価を行っていたことが判明（5月中旬）したため、新内規に基づく評価を行うこととした。また、ECCSストレーナ試験に基づく異物の付着量を反映するため、強度・耐震計算書の作成が 7 月末に遅れる見込みとなった。（対象：残留熱除去系，原子炉隔離時冷却系，高圧炉心スプレイ系，低圧炉心スプレイ系）

（３）環境温度見直しによるもの（5 件）

環境条件の検討において、最も厳しい条件として主蒸気管破断に起因する重大事故を想定することとなり、強度・耐震計算書の評価条件が変更になったため、強度・耐震計算書の作成が 7 月末に遅れる見込みとなった。（対象：計測装置）

（４）その他（24 件）

工認対象機器の追加（原水タンク）により、強度・耐震を追加評価するもの，立坑のモデル統一，設計用ＦＲＳの遅延による津波防護施設の耐震評価等。

3.　今後の対応

各計算書の作成に当たっては，受注会社と事前に評価結果を確認しながら，手戻りが生じないようマネジメントを強化していく。

また，全体工程を確実に順守するとともに，細かなところについてもクオリティを上げてしっかり対応していく。

具体的には，以下の観点を踏まえた工程管理を実施していく。

・これまでのコメントについて，回答の優先度を考慮した工程管理とすること。

・先行で実績が無い項目について，資料の各作成段階で適宜内容を確認し，優先的に提示できること。

以　上